

ウジミナス 当局の判断に注目

役員解任の正当性を問う 役職復帰の場合には上告へ

4月6日に特別株主総会（AGC）を開き取締役会を選出するウジミナスの株主らが、裁判所と経済防衛管理審議会（CADE）の判断に注目している。

CSNの少数株主の権利は？



昨年ウジミナス会長を解任されたフリアン・エグレン氏

もしくは2人が同陣営の主張を認めると分析している。2月24日の報告で同陣営に好意的な意見が述べられたことを受けたもので、実際に解任された3人の役員は経営に違法性がなかったとする判断が下された場合、同陣営にとって大きな勝利につながる。

裁判所の判断は2014年9月の役員解任の是非を問うもので、一方の経済防衛管理審議会（CADE）は、取締役の選出にあたってナショナル製鉄会社（CSN）に対して少数株主としての権利

も、解任の無効が確認されれば3人の役員に対して復職以外の選択肢を選ぶ可能性もある。

ウジミナスがAGC実施 新たな取締役を選出へ

新たな取締役を選出へ

ウジミナスの取締役会が、少数株主のリオ・パロツト氏の要請を受けて、4月6日に特別株主総会（AGC）を召集する。ウジミナス（CSN）は、ウジミナス株主としての権利の行使停止を命じた経済防衛管理審議会（CADE）に対して、

ドル高でM&Aが加速 伯国企業価値の値下がり

伯国企業価値の値下がり

政治的、あるいは経済的に明らかな理由がないものの、ドル高が急激に進んでいることで、ブラジル国内で企業買収に関心をもち、外国人投資家が増加している。

シャープの今後の戦略は？ カガワ社長による展望

カガワ社長による展望

1994年に逝去した実業家のマチャス・マシヨリン氏が1960年から1990年にかけてブラジル国内で手がけたことで知られる日本のシャープだが、この間ブラジル国内のシャープはブランドのライセンスのみであり、製品の上では日本のシャープと直接の関係がなかったこと



シャープ・ブラジルのカガワ社長

業計画を撤回した。その後、2011年からはコピー機や印刷機、ドキュメント管理システム、インタラクティブ・スクリーンといった製品を法人向けに展開。一般消費者向けには、ポータブル空気清浄器のみを販売してきた。

現在、サンパウロ市内の事務所では22人が働き、国内流通網の拡充に

権利行使を制限してきた問題について、25日に判断を下す予定だ。4月25日に定例株主総会（AGO）が予定されている中で、その直前にAGCを実施するのを阻止しようとしている。他方、新日鐵住金側は、少数株主のリオ・パロツト氏との関係を構築、取締役会議長の選出を支援している。

またCADEの場合、2012年からウジミナスにおけるCSNの

また新日鐵住金が資本の3%を保有する山九株式会社が、パロツト氏を側面から支援している

北東部横断鉄道で遅れ ANTTは完成認めず

トランスノルデスチーナ（北東部横断鉄道）は着工からほぼ10年以上が経過したものの、政府が必要と主張している。さらに1月22日には、第3の路線としてサルゲイロ市とトリリタ市間の163キロの完成予定日を迎えた。

消費者も景気には悲観的

消費者も景気には悲観的

年々始から景気が急速に悪化していることで、財界だけでなく消費者の景況感が悪化しており、とりわけ消費者の間で景気の先行きに対する悲観的な見方が強まっている。

米や赤ワインまで輸入

BMWの亜国への輸出対策

BMWは、アルゼンチン市場への車両輸出を継続するため、アルゼンチンから自動車部品を輸入するだけでなく、米や赤ワインといった農産物まで輸入することで輸出枠（ドル送金枠）を確保し

TTは工期が守られず完成していないと主張している。（16日付掲載）

同組合の調査によると、2015年1月の総売却額（VGV）は3億8500万レアルで、全国土木建築指数（INC）による修正を加えた実質成長率は、前月比7.6%減、前年同月比2.6%減となった。

また2LDKが34.3%、4LDKを占めた。続いて多かったのは1LDKだった。（16日付掲載）

この路線は、総工費を45億レアルから75億レアルに引き上げる再交渉に伴う2014年1月の新たな契約で想定されていたものであるが、この路線についても、ANTTは完成認めず

BRFが記録的な利益拡大

BRFが記録的な利益拡大

2014年第4四半期に利益率を記録的な水準の22%近くまで引き上げたBRFは、2015年もこの堅調な業績を継続することを同社の課題としている。

FHCが反ジウマ・デモ語る

「ツケはPTが負うべき」

一連のデモについてフェルナンド・エンリケ・カルドソ元大統領は、民衆運動であり政党によるものではないと述べ、野党はデモの前面に立つていないとの認識を示した。

B-side

経済ニュース速報 & データベース

- コピー&ペーストで報告書が作成可能な最新のビジネスニュースをいち早く入手したい
- データベース化された情報を利用したい
- 求めるニュースや話題を伝えてインタラクティブに情報を入力・交換したい

効率的に連携させて 効果的な利用が可能です

そんな「したい」を、B-Side Solutionsがお手伝いいたします。

お問い合わせは、サイト運営会社の B-Side Solutions Ltda. へ。

Rua Apeninos, 665 1ºand. Sala3 Paraíso - São Paulo - SP Tel: (11) 3271-5680 <http://b-side.brasilforum.com/> b-side@brasilforum.com

クリッピング調査や 翻訳もお任せください

B-side からのお知らせ

龍谷大学同窓会南米支部が発足

龍谷大学経済学部1期生（昭和40年卒）でパラグアイ在住の島崎允也（しまざき・ゆの）氏が発起人となり、さる6月10日、サンパウロ市内で、パラグアイとブラジルの龍谷大学OBにより龍谷大学同窓会南米支部が発会しました。

南米支部は当面、社会学部2期生（平成5年卒）の美代賢志（みや・けんじ）氏が世話人となり、調査・翻訳会社「B-side」の事務所を連絡先とします。OBリストへの登録を希望する方は kenji_miyohotmail.com までメールにて連絡ください。

ニッケイ俳壇

(832)

星野 瞳 選

新津 稚鴨

アリアサ
連なりて尻を揃えしチャカ熱る
チャカ熱れし句ひにニグロ徘徊す
夏深し寝物語りに師を偲び
野天風呂なりし蛙が鳴いて居し
カルナバル津軽武多は見ず仕舞
○今年のカルナバルに、有名な青森のねぶた祭の山車を行進に出したが余り人気を得なかつた。テレビにも余り出なかつた稚鴨さんも見ず仕舞された。

プーブルアチ 野村いさを
硯洗ふ日課の写経も怠けがち
子に残す吾が家の糸図秋灯下
逃水を追ふて楽しき日もありし
駒形のどじょうも試し余後の旅
カポストジョルトン 鈴木 静林
売りの声今朝とり立てと鯛売り
愛想よき女の子連れ鯛売り
稲の花今花盛り甘き香り
野朝顔山越えて通ふ登校児
セーラドクリスタス 桶口玄海児
ベイジャフロールポインセチア花にキス
風触の岩山巡る大夕立
大早の牧に蟻塚あるはあはは
四阿に一月一日小鳥鳴く

青木 駿浪
花びらを傷めて過ぎし水雨かな
クアレズマ今日は心に添いて咲く
前田 昌弘
郷愁より望郷哀し雛節
国去りし日難かりし日よ昔かな
理不尽に孫叱らるる夜の秋
カルナバル衣装の幼児抱き歩く
武田 知子
人の世の別離は不意に蜜の夜
法名となりし夫に新秋波み
かも知れぬと自問しつつも夏深み
気ままとは纏(ま)ごう淋しき身にも人(し)み
児玉 和代
日系の雛飾りなき吾子二人
雛の目せめて雛壽司雛の歌
秋めきぬ夜の帳に衣重なる
秋雨となりて雨乞ふ街ぬらす
馬場 照子
国境を越え来し風は今朝の秋
旅人に初秋告げおるクアレズマ
蘭を抱き小鳥集もるクアレズマ
かの流行りしキュービー下段に雛飾る
西谷 律子
家中の時計直して夏果つる
玻璃のビル茜に燃えたく焼けぬ
クアレズマ受難節近か夕程に燃え
日盛りの余熱の残る宵の街
西山ひろ子
生命線少し縮めて残暑病む
一と房を五人に分けてマスカット
隠くさんと弛むこの腕うす衣
夏時間終りゆとりの戻る日々
小村 広江
ヒエターチ

小斉 樟子
草の絮夢あられふくく老いにけり
香のなきもまた清しけりトルコ桔梗
群れて咲く野秋の道を句宿へと
柳原 貞子
古風なる店の主と蘭の花
ともかくも息災にして夏果つる
秋立つや肩肘張らず見栄張らず
口ザリオの胸にやさしき秋の風
西川あけみ
友受けし癌の告知や残暑なる
七十代今日生きて秋涼し
目の前にアゲンツ山脈の天
ワインに酔いタンゴに酔い秋の夜
原 はる江
とりどりの路傍の花も秋めけり
水不足と出水に泣く民サンパウロ
晴れやかに山々染めて花マナカ
どの句座も長老となり秋思かな
身吉 尚子
雑草の中まじりて白桔梗
星月夜ハロウゆつくり海に消え
テロ絶えぬ聖地の秋や「主よいざこ」
掃うには惜しき蜘蛛の網露の玉
栗山みき枝
秋晴の味嗜濃濃目の里の味
干し柿や日本みやげ噛みしめて
木肌ぬぐジャポチカバの肌清し
秋うらら山の家夕陽につつまれて
西森ゆりえ
クアレズマを庭に咲かせてしあわせに
端居してドラマの如き話聞く
涼しさに雨遠のくを案じ居り

大塩 佳子
栗むきつ拾ひし友を思い居り
サンパウロ
晩晴の聖歌聞こえ来四句節
友そろしや漢字忘れる人の秋
夜の逝く見送る仲間秋隣
鱈には今も昔も助けられ
川井 洋子
むせる程大地に上り喜雨の湯気
一と筋の風にただよ夜の秋
睡蓮の押し合ひたし合ひ広がりぬ
なつかしい細長西瓜売られおり
岩崎るりか
貧しさをサンバで忘れカルナバル
サンバ踏む老若男女酔ひれて
バテリ女王憑かれた様に踊り居り
老忘れ心おどらすカルナバル
大塩 祐二
カルナバル終りけだるさ残る街
夏時間終り朝焼け秋降る
読書好き一層つる晩夏かな
明け放つ寝間に朝風秋降る
サンパウロ
忘れぬ影影夜夜の秋
渡り来る肌さらりと野路の秋
秋めくや心とらぐセレナーデ
一行の文字うつくしき句の秋
サンパウロ
古団扇つかしままの軒かな
古風も知らぬネグロの太鼓腹
思い切り我が頬打たて蚊を討ちぬ
風死ど死んで成るかよ百までは
小林エリーザ
バイネイラは国の花とや花さかる

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の晴れて老母と初笑ひ
父逝きて母年老いて去年今年
歳一つ増してながめる初鏡
岩本 和子
服部タネ女
河原 タカ
山口 くに
山口 くに
服部タネ女
阿部 真依
吉野 君子
丸岡すみ子
橋本美代子
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

マナス
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

ニッケイ歌壇

(485)

上妻博彦 選

湯山 洋

カベ
雨不足終ったあとと雨続きは緑が盛り上がりた
残暑とは畑を実らす恵みなり少しの我慢秋はず
そこ
秋立つや大豆畑も色付いてサイロの塔が銀に輝く
バラナ路は実りの秋に覆われて夜まで続くコンパ
インの音
大豆畑むトトラック走る農道に赤き埃が夕べ棚引く
「評」豪雨、洪水などのニュースばかりの都
市からするとなんのどかな風景だろう。一
首目の「雨続き」でもそれを受ける下の句
「畑は緑が盛り上がり」が良い。この一連の
下の句がすべて肯定的であり読む者に明るい
広がりを与えるではないか。

サンパウロ 相部 聖花
藍と白絞りの朝顔今朝は十揺れつつ迎える笑顔の
我れを
蜜峰は我れより早起き朝顔の花に出入りすいと
忙しく
朝顔の支柱に立てし南天の枝が根付きて若葉萌え
出づ
新米は四月に出ると品切れの好ましき名の「銀

青木 駿浪
花びらを傷めて過ぎし水雨かな
クアレズマ今日は心に添いて咲く
前田 昌弘
郷愁より望郷哀し雛節
国去りし日難かりし日よ昔かな
理不尽に孫叱らるる夜の秋
カルナバル衣装の幼児抱き歩く
武田 知子
人の世の別離は不意に蜜の夜
法名となりし夫に新秋波み
かも知れぬと自問しつつも夏深み
気ままとは纏(ま)ごう淋しき身にも人(し)み
児玉 和代
日系の雛飾りなき吾子二人
雛の目せめて雛壽司雛の歌
秋めきぬ夜の帳に衣重なる
秋雨となりて雨乞ふ街ぬらす
馬場 照子
国境を越え来し風は今朝の秋
旅人に初秋告げおるクアレズマ
蘭を抱き小鳥集もるクアレズマ
かの流行りしキュービー下段に雛飾る
西谷 律子
家中の時計直して夏果つる
玻璃のビル茜に燃えたく焼けぬ
クアレズマ受難節近か夕程に燃え
日盛りの余熱の残る宵の街
西山ひろ子
生命線少し縮めて残暑病む
一と房を五人に分けてマスカット
隠くさんと弛むこの腕うす衣
夏時間終りゆとりの戻る日々
小村 広江
ヒエターチ

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の晴れて老母と初笑ひ
父逝きて母年老いて去年今年
歳一つ増してながめる初鏡
岩本 和子
服部タネ女
河原 タカ
山口 くに
山口 くに
服部タネ女
阿部 真依
吉野 君子
丸岡すみ子
橋本美代子
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の晴れて老母と初笑ひ
父逝きて母年老いて去年今年
歳一つ増してながめる初鏡
岩本 和子
服部タネ女
河原 タカ
山口 くに
山口 くに
服部タネ女
阿部 真依
吉野 君子
丸岡すみ子
橋本美代子
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

マナス
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

カベ
雨不足終ったあとと雨続きは緑が盛り上がりた
残暑とは畑を実らす恵みなり少しの我慢秋はず
そこ
秋立つや大豆畑も色付いてサイロの塔が銀に輝く
バラナ路は実りの秋に覆われて夜まで続くコンパ
インの音
大豆畑むトトラック走る農道に赤き埃が夕べ棚引く
「評」豪雨、洪水などのニュースばかりの都
市からするとなんのどかな風景だろう。一
首目の「雨続き」でもそれを受ける下の句
「畑は緑が盛り上がり」が良い。この一連の
下の句がすべて肯定的であり読む者に明るい
広がりを与えるではないか。

サンパウロ 相部 聖花
藍と白絞りの朝顔今朝は十揺れつつ迎える笑顔の
我れを
蜜峰は我れより早起き朝顔の花に出入りすいと
忙しく
朝顔の支柱に立てし南天の枝が根付きて若葉萌え
出づ
新米は四月に出ると品切れの好ましき名の「銀

青木 駿浪
花びらを傷めて過ぎし水雨かな
クアレズマ今日は心に添いて咲く
前田 昌弘
郷愁より望郷哀し雛節
国去りし日難かりし日よ昔かな
理不尽に孫叱らるる夜の秋
カルナバル衣装の幼児抱き歩く
武田 知子
人の世の別離は不意に蜜の夜
法名となりし夫に新秋波み
かも知れぬと自問しつつも夏深み
気ままとは纏(ま)ごう淋しき身にも人(し)み
児玉 和代
日系の雛飾りなき吾子二人
雛の目せめて雛壽司雛の歌
秋めきぬ夜の帳に衣重なる
秋雨となりて雨乞ふ街ぬらす
馬場 照子
国境を越え来し風は今朝の秋
旅人に初秋告げおるクアレズマ
蘭を抱き小鳥集もるクアレズマ
かの流行りしキュービー下段に雛飾る
西谷 律子
家中の時計直して夏果つる
玻璃のビル茜に燃えたく焼けぬ
クアレズマ受難節近か夕程に燃え
日盛りの余熱の残る宵の街
西山ひろ子
生命線少し縮めて残暑病む
一と房を五人に分けてマスカット
隠くさんと弛むこの腕うす衣
夏時間終りゆとりの戻る日々
小村 広江
ヒエターチ

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の晴れて老母と初笑ひ
父逝きて母年老いて去年今年
歳一つ増してながめる初鏡
岩本 和子
服部タネ女
河原 タカ
山口 くに
山口 くに
服部タネ女
阿部 真依
吉野 君子
丸岡すみ子
橋本美代子
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の晴れて老母と初笑ひ
父逝きて母年老いて去年今年
歳一つ増してながめる初鏡
岩本 和子
服部タネ女
河原 タカ
山口 くに
山口 くに
服部タネ女
阿部 真依
吉野 君子
丸岡すみ子
橋本美代子
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

マナス
見た昔の初夢すでに模糊となり
娘のような新入り迎え初句会
迷いなく汀を目指し亀舞る
流水を拾うが始め河キャンプ
マナス
おしゃべりも笑って弾む初句会
句も血も腕によりかけ初句会
亀舞りアマゾン河にまつしぐら
一つ鍋つき語らうキャンプかな
マナス
雲ときれアマゾンの空初日の出
新品の句帳とペンで初句会
アマゾンに幾度迎えるお元日
今年又健康であれと雑煮食ふ
マナス
初夢を枕の下の絵にたくし
店頭西瓜叩いて吟味する
亀舞るこの故郷へいつ戻る
キャンプ場プラネタリウムの如き空
マナス
初句会今年こそはと気合入れ
西瓜食べうちわ片手に汗流す
愛犬も寄り添い眠つた天幕村
マナス
ブラッサに山とつまれて西瓜売り
夕風に亀這い登る砂浜かな
生れ出し子亀の走る浜白し
すいすいと亀も泳ぐや春の海
マナス
戸口 久子

カベ
雨不足終ったあとと雨続きは緑が盛り上がりた
残暑とは畑を実らす恵みなり少しの我慢秋はず
そこ
秋立つや大豆畑も色付いてサイロの塔が銀に輝く
バラナ路は実りの秋に覆われて夜まで続くコンパ
インの音
大豆畑むトトラック走る農道に赤き埃が夕べ棚引く
「評」豪雨、洪水などのニュースばかりの都
市からするとなんのどかな風景だろう。一
首目の「雨続き」でもそれを受ける下の句
「畑は緑が盛り上がり」が良い。この一連の
下の句がすべて肯定的であり読む者に明るい
広がりを与えるではないか。

サンパウロ 相部 聖花
藍と白絞りの朝顔今朝は十揺れつつ迎える笑顔の
我れを
蜜峰は我れより早起き朝顔の花に出入りすいと
忙しく
朝顔の支柱に立てし南天の枝が根付きて若葉萌え
出づ
新米は四月に出ると品切れの好ましき名の「銀

青木 駿浪
花びらを傷めて過ぎし水雨かな
クアレズマ今日は心に添いて咲く
前田 昌弘
郷愁より望郷哀し雛節
国去りし日難かりし日よ昔かな
理不尽に孫叱らるる夜の秋
カルナバル衣装の幼児抱き歩く
武田 知子
人の世の別離は不意に蜜の夜
法名となりし夫に新秋波み
かも知れぬと自問しつつも夏深み
気ままとは纏(ま)ごう淋しき身にも人(し)み
児玉 和代
日系の雛飾りなき吾子二人
雛の目せめて雛壽司雛の歌
秋めきぬ夜の帳に衣重なる
秋雨となりて雨乞ふ街ぬらす
馬場 照子
国境を越え来し風は今朝の秋
旅人に初秋告げおるクアレズマ
蘭を抱き小鳥集もるクアレズマ
かの流行りしキュービー下段に雛飾る
西谷 律子
家中の時計直して夏果つる
玻璃のビル茜に燃えたく焼けぬ
クアレズマ受難節近か夕程に燃え
日盛りの余熱の残る宵の街
西山ひろ子
生命線少し縮めて残暑病む
一と房を五人に分けてマスカット
隠くさんと弛むこの腕うす衣
夏時間終りゆとりの戻る日々
小村 広江
ヒエターチ

小坂 正光
吾が身長一米と六十五体重は六十五Kの平均型な
医学的に体重と身長を平均型の理想と記さ
る
高年齢となれども吾れは体重と身長は同数変ること
なし
裏庭に真赤に熟れしアセローラ袋を手にして妻
とさ探る
アセローラ真赤に熟せど甘味無く小鳥等好まず鈴
生りとなる
サンパウロ
「健康が何より、筆者も青年の頃から一
貫して70Kプラスマイナス健康です。アセ
ローラにはビタミンCが豊富らしいので益々
の御健勝を。」
坂上美代栄
ドア開けてヒポカのように弾け出る人の洪水メト
ロの駅は
雑踏の地下鉄駅を職員に手を預けめしいエレバ
ドルへ
時折に信号待ちの旨(め)しい、あり声かけたが
吾も危うし
伯人の妻いいし日系がいつしか老いて妻を見か
けず
少年のめししが早も青年に独り歩くも頼もしく見
ゆ
小坂 正光
「椰子樹」誌の最新号は近頃無き季作の揃いと
思いき
椰子の種類は数あれど「椰子樹」誌をたとうれば
矢張りココ椰子
メル在りし頃は扇も開けしまま何か入れば犬が追
い出す
何時の間にか古果の破れ纏ってジョンデパーロは
戻って居たり
西日射す軒に果食いしアララの番、日中はそろっ
ていつも留守らし
「評」二首目「メル」は以前飼っていた犬を
回想するのだが、思い入れはあっても少々弱
くなる。四、五首に観察の眼がある。

東 比呂
老移民の夜逃げし耕地バイネイラ
住みなれて此処がふるさとバイネイラ
移民来て落ちて着くココニアバイネイラ
マナス
初夢の大魚と渡る大アマゾン
亀を知る農夫守りいし亀舞る
昨夜より持ち越して来し初笑ひ
松田 丞老
駒の顔メンバ揃って初句会
キャンプで酒酌み交わす徹夜組
雨上り島々結びて虹かきり
元日のおせちの味に母を恋ふ
マナス
父と子に満天星降る山キャンプ
若人のキャンプに満天星光る
春暁とともに釣りにくくピラルクー
マナス
初夢の亡夫は遠くは笑みで居り
西瓜買ふ叩いて弾いて音を聞き
亀生る迷わず河へ走り行く
バルサ行く大河踏ぎて虹立てり
マナス
砂まみれ河辺ヘダツシ亀解る
キャンプの蓮の開花を見るツアー
水鏡水鏡使う娘キャンプ
歳日にコイン投げ祈るネグロ河
マナス
保護されてアマゾン奥地亀解る
心配の

商議所総会 村田新会頭が所信表明

「不安定な今こそ結集を」



挨拶する村田新会頭

ブラジル日本商工会議所が13日、第65回定期総会と3月定例懇親会を兼ね、会頭が藤井晋介氏(三井物産)から村田俊典氏(三菱東京UFJ銀行)に交代した。

村田氏は、18年、同会議所の理事として7年になる村田新会頭は、開かれた総会を契機として、会員により効果的な活動を行うよう環境を整えたいと所信表明した。

また、5社が登壇し社長交代のあいさつも行った。東京海上保険は酒井浩一郎氏から石丸正剛氏、三井化学は岡部雅行氏から田中慶太郎氏、ミツトヨは水谷隆氏から井上正志氏、パナソニックは村上廣高氏から松下理一氏、南米安田保険は奥村幹夫氏から安田篤氏に交代した。在聖総領事館・経済班の坪井俊宣領事も帰国あいさつに立った。

JATAK 研修生OB会が解散 余剰金を7施設に寄付

JATAK(全国拓植農業協同組合連合会)の研修生OBによる組織「帰国研修生協議会」が昨年9月に解散し、運営費の余剰金を日系福祉団体に寄付した。聖市リベルターデの社会福祉法人「こどものそら」の事務所で20日、贈呈式が行われた。

同OB会から会長の高梨圭さん(39、二世)、会計の立石セリジさん(44、二世)と共にサンジョゼ・ドス・カンポス在住の、聖市事務所元所長の馬場光男さんが訪れ、「小額ですが、少しでもお役に立てば」と、支援団体のやすらぎホーム、憩の園、希望の家、こどものそら4施設に、それぞれ6323.88レアルを手渡した。

支援の菊地義治会長が代表して「訪日研修を経



(前列左から)高梨会長、立石会計、馬場元所長と福祉団体関係者

てブラジル農業に立派に貢献してこられた。寄付は高齢者や障害者の支援のために使われていたいただきます」と感謝を述べ、OB会の解散を惜しんだ。日系団体のほか、聖州イビウナ、パレット、ミナス州の併施設にも同額が寄付される。訪日研修は07年実施が最後。これまで328人(パラグアイ、アルゼンチンの2人含む)が参加した。今後のOB活動として高梨会長は、「全国規模での連携は難しいが、アルジャー周辺の花弁農家、ピラールの果樹農家など、近い地域の同業者同士はつながりを維持したい」と話している。

ガウシヨ物語

シモンエス・ロッセス・ネット

監修 藤門剛夫 翻訳 サトルアリス

(11)

来事が起こっている。アンドレ軍曹がやって来て、間もなく結婚の噂が広まったというわけだ。

シモンは口から泡を噴くほど憤慨した。馬に八つ当たりし、犬どもには鞭が飛び、弟たちは平手打ちを喰らひ、母親にまで乱暴な口を利いた。

父親のシモン爺さんにだけは遠慮があった。なぜなら、穏やかな見かけによらず、いざという時には意地を見せる男だったからだ。

その日、むごたらしい事件が起きる前日だった。シモン・トリステの家で、この辺りを通りかかった旅の伝道師による洗礼式が行われた。

また、5社が登壇し社長交代のあいさつも行った。東京海上保険は酒井浩一郎氏から石丸正剛氏、三井化学は岡部雅行氏から田中慶太郎氏、ミツトヨは水谷隆氏から井上正志氏、パナソニックは村上廣高氏から松下理一氏、南米安田保険は奥村幹夫氏から安田篤氏に交代した。在聖総領事館・経済班の坪井俊宣領事も帰国あいさつに立った。

あいつは二重国籍の西洋かぶれだから、兵隊にとられていい気味だ。土性骨を叩き直せばいい。そんな、陰口が叩かれているのを知っていた。そういう偏狭な日本の社会から脱け出したかった。日本人を憎んだ。私が日本人であるよりもブラジル人でありたいと考えるようになったのは、日本が私に仕向けられた悪意の結果である。どうしたも二人を救わなければならぬ。敵兵に対する憎悪が憐憫の情に変わっていくのに、私は快ささえ感じていた。衛門を出たところで曹長と別れ、石塊の坂を登りはじめた。

私は空を見上げた。一点の雲もない深い碧さは、むしろ碧よりも深い濃紺であった。先きほどの爆音はあのまま去ってしまつたらしく、未帰還機の捜索だつたのだらう。海鳥の群れが頭を掠めるように斜面に沿って飛んで行った。

真昼の太陽の下の風景は余りに静穏すぎた。爆音の聞こえない屋が不気味だった。荒川の流した血に、まだ執念深く貪欲な蝶たちがへばりついていた。私は物憂くそれを眺めて通りすぎた。

わたしはいつもの道筋を外れて、稜線斜めに見上げる方向を選んだ。稜線の上には、大きな榕樹が一〇メートルの間隔でいくつもの塊りがある。雨の恵みの最も少ない頂上にだけ、この大木が生い茂っているのは、この植物の特性なのか。

オリンプスの港通りにも、この並木道があった。幹から出る太い枝根が幾本も地下に喰い込み、同じ熱帯樹のタコの木のように根を張っている。この稜線の幾百年、幾千年の昔には広い密林であったのかも知れない。その密林の名残りののだろうか。榕樹林は目の前にあった。

友軍が上陸して以来、おそらく誰も近づいたことがないこの林であった。もちろん我々の上陸前に友軍の航空隊は空中からの調査を行ったに違いないが、じかに足を踏み入れるのは私が最初だろう。近づくにつれ、樹の根もとの部分が深く入り抜かれているのに気づいた。何かにつかまらなければ幹に揺られることができない。私はその崖を見上げて溜息をついた。榕樹は帽子のような山塊の上に立っている。長い風雨の年々の間に根元がえぐられたのだ。それは僅か三メートルほどの高さだが、私がいかに懸命に跳び上がったところで手が届くものではなかった。崖の周囲をひと廻りするのを見た。帽子の底のような部分から無数に垂れ下がった榕樹の根が、びっしりと張った蔓草とからみ合せて編目のように崖のふところを包んで垂れ、それは厚いカーテンのようにえぐられた壁面を覆っている。その内側がどれほどの広さなのか、透かして見るまでもなく大体的見当がついた。

垂れ下がっている蔓草の一本を引っ張って見た。細い芯はわずかに動いただけで、その節々から出ている細い根が他の芯に蛇のようにからみつき、他の芯もまた、その他の芯と互いにかみ合っている。これは熱帯の蔓草の強靱な生習性だった。動物の本能にさえ見えなかった。

この編目に足をかけてよじ登ることはできても、帽子の底の部分で遮られてしまう。樹林に入る前に、このカーテンの奥を調べなければならぬ。敵が樹林に登ることができないことが明らかになったが、あきらめることはできなかった。

このカーテンの奥の秘密を探らなければならない。しかし、今日はもう時間がない。帰營の時間に遅れてしまう。いつもの小径に出るために斜面を降りはじめた。

(52)

また、5社が登壇し社長交代のあいさつも行った。東京海上保険は酒井浩一郎氏から石丸正剛氏、三井化学は岡部雅行氏から田中慶太郎氏、ミツトヨは水谷隆氏から井上正志氏、パナソニックは村上廣高氏から松下理一氏、南米安田保険は奥村幹夫氏から安田篤氏に交代した。在聖総領事館・経済班の坪井俊宣領事も帰国あいさつに立った。

たて、微かな物音でも聴こえた。……

シモンが入ってきた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

よく覚えていた。娘は、前夜、踊ったりしゃべったりして楽しんだ後に、ええと小声で口ずさんでいた。その頃というのには……よく覚えていた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

(11)

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

……シモンだぞ、よく聞いたら、追いつめられた。……

60年の歴史初の女性会長か

文協選挙

体制派が呉屋氏を候補に決定

上原氏に次ぎ沖繩系2人目

「文協会長候補に指名され、とても光栄に感じている。まさか会長候補に、こんなに早く女性...」



筆頭候補となった呉屋副会長

呉屋氏は「女性初の会長候補はとも大変な戦いだが、今後は心算...」

カリタス会の後を補い合う

「企業会員をお願いに回る」

救済会「憩の園」(吉安市会長)は22日、聖市協会のビルにエスベラ...」



後移する吉安会長

「憩の園」救済会。昨年、未利用地を売却...」

「憩の園」救済会。昨年、未利用地を売却...」

「憩の園」救済会。昨年、未利用地を売却...」

阿川佐和子が久保田邸前をパレード

愛知県犬山市の博物館明治村では15日に新村長就任パレードが行われた。初の女性村長でエッセイストの阿川佐和子さん(61)が、聖州レジストロ市から移築された久保田邸前を通過する写真が、米田誠士さん(67、兵庫)から送られてきた。米田さんは11年に国際交流基金の助成でモジ市お茶屋敷の模型制作のために来伯し、レジストロで模型制作講習会を開くなど当地と縁が深い。



阿川佐和子(左)と西川さん(右)がパレードに参加している様子。

大耳小耳

木多会長1期目となる09年の選挙は、小川彰夫氏を会長候補とする「チエンジ文協」を6票引き離し、体制派「統合エコパーク化」(500万入居者は78人で大半が得...)

80歳以上、昨年亡くなったのは12人という数値に専門家も驚いている。たまたま、入居者が長命なだけ、それだけ職責がきめ細かいケアを施しているからだろう。同園創立5日目の開業まで、来月8月5日の開業まで、これだけの準備が整ったのだらうか。日本チームの予選突破同様、肝心の工事の進捗状況も気がかりだ。一時まで。

在伯公館が手数料改定

4月15日の申請から、在ブラジル日本国大使館、各領事館、領事事務所の手数料が改定される。4月15日以降の申請分から改定される。

リピテレス全伯虚子忌大会

4月21日「俳句の日」に聖州リピテレス・ペーリ市が定める「俳句の日」(Festa do Haikai)を開催される。第22回全伯虚子忌「俳句大会」が開催される。

休職のお知らせ

紙面の都合により、本日の連載「台風の目」吉川順治の横断は休載します。

Advertisement for Kenko Hirose (健康食品), Handa & Handa - Advocacia, Perfumaria Takeo, and Viação Garcia.

Advertisement for Tokio Marine Seguradora.

